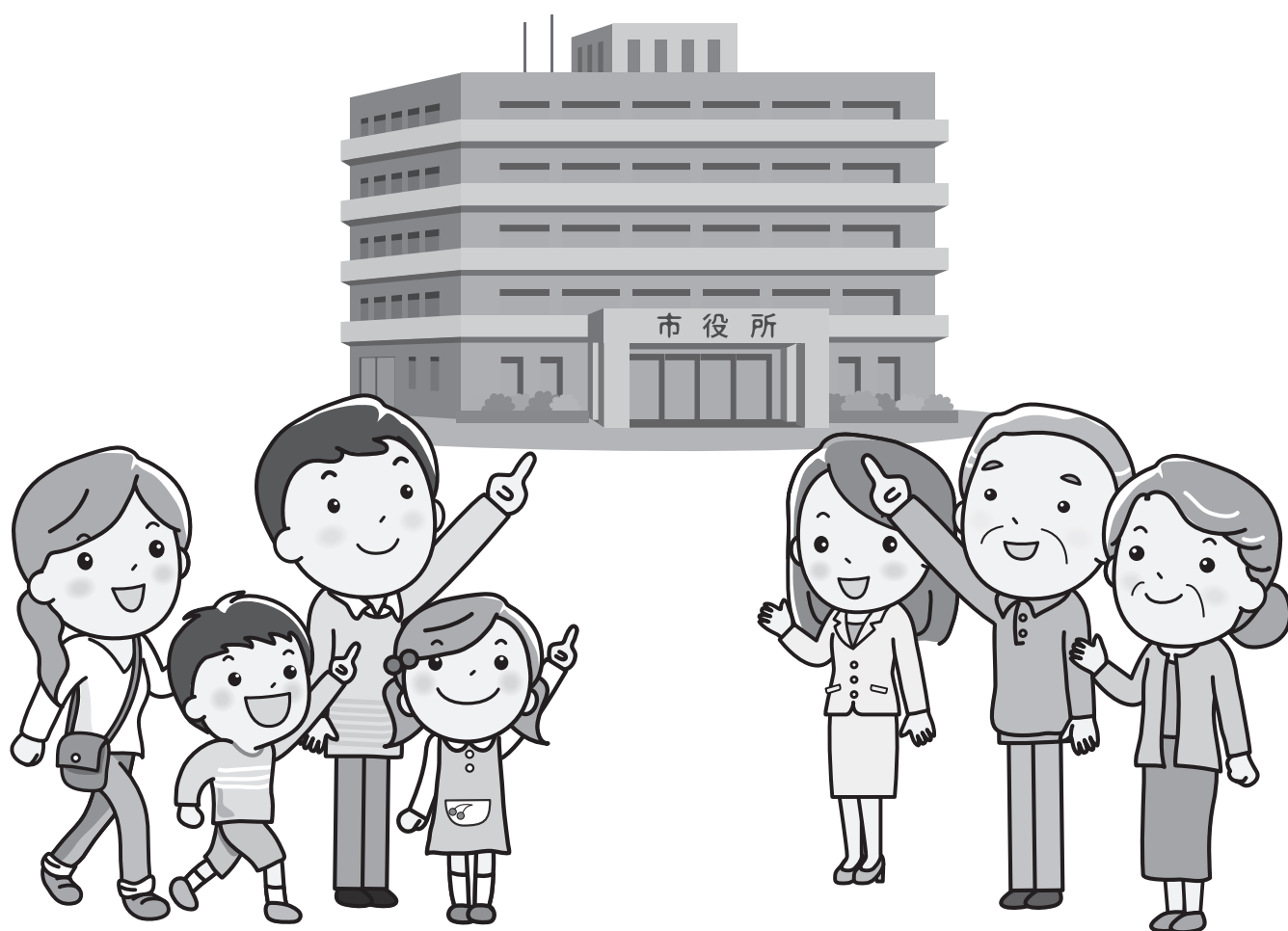


「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた

「みたか まちづくりディスカッション」

実 施 報 告 書



平成30年3月

「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」実行委員会

はじめに

この報告書は三鷹市とNPO法人みたか市民協働ネットワークがパートナーシップ協定を結び、「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」の結果を集計し、市民提案として三鷹市に提出することを目的にまとめたものです。

運営組織は公平・公正な運営を担保するために三鷹青年会議所、三鷹商工会青年部、J A東京むさし三鷹地区青壮年部、住民協議会、市内大学の学生そして市民の計29人による実行委員会を設置し実施いたしました。

この「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」は、広範な市民の意見を構想に反映させるため、実行委員会で約4か月間、検討部会も含め10回の会議を経て作り上げ、今まで市民参加の機会がなかった市民の皆さんにまちづくりに参加していただくという取り組みです。

市政に声なき声をくみ上げ、また市民参加の意識向上による参加拡大が期待できるこの取り組みは多くの市民の皆様より反響をいただきました。18歳以上の市民を対象に完全無作為抽出により1,800人に参加依頼書を送付したのに対し、実行委員会が考えていた当初の想定を上回り、過去に実施された「まちづくりディスカッション」で最高の参加承諾率となる7.9%（142人）から参加同意があり、公開抽選により選ばれた80人のうち、当日お越しいただいた62人にご参加いただきました。

平成30年（2018年）2月11日、12日の2日間で三鷹市公会堂 さんさん館にて実施され、参加者が12グループ（1グループ5～6人）に別れて、4つの小テーマの話し合いに対して熱心な討議が行われ、多くの意見や考えを聞くことができました。

この報告書を市民提案として三鷹市に提出するにあたり、この内容を「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に反映することを参加市民に代わりましてお願いいたします。

今後もこの「まちづくりディスカッション」が、公平・公正な運営のもとにより発展し、継続的に行われることを切に願っております。

平成30年（2018年）3月

「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた

「みたかまちづくりディスカッション」実行委員会

実行委員長 吉田 純夫

目次

はじめに

目次

第1章 「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた 「みたかまちづくりディスカッション」	2
I 経過・目的	
II 位置付け	
III 実施概要	
IV 本番当日のスケジュール	
第2章 まちづくりディスカッションの話し合いの結果	7
I 話し合いに向けて	
II 話し合いの方法	
III 話し合いの結果	
第1回話し合い	
第2回話し合い	
第3回話し合い	
第4回話し合い	
第3章 まちづくりディスカッションの評価・検証	21
I 評価・検証（プログラム編）	
II 評価・検証（運営編）	
まちづくりディスカッションを終えて	27
資料編	29
I 各テーマ別の話し合いの結果（話し合いのシート）	
II アンケート結果	
III 参加者統計	
IV 「みたかまちづくりディスカッション」の実施に関わる資料	
V 「広報みたか」掲載記事	
編集後記に代えて ～スタッフからのメッセージ	67

第1章 「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた

「みたかまちづくりディスカッション」

I 経過・目的

三鷹市では、建設から52年以上が経過した市庁舎等の建替えの検討を、「第4次三鷹市基本計画（第1次改定）」の主要事業に位置づけている。

そこで、平成28年（2016年）9月、市とNPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構が共同設置している「三鷹まちづくり総合研究所」の分科会として、「庁舎等建替えに向けた基本的な枠組みに関する研究会」を発足させ、市庁舎等の建替えに向けた取り組みを開始した。研究会では、学識経験者と市職員が多様な視点から市庁舎等の建替えに向けた調査検討を行い、提言をとりまとめた報告書を、平成29年（2017年）6月に市長に提出した。

これを受けて、市では、平成29年（2017年）8月に「三鷹市庁舎等整備基本構想策定に向けた基本的な考え方」をまとめ、「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」の策定に向けて検討を開始した。基本的な考え方では、三鷹市政の基本理念である「参加と協働」の取り組みを推進するため、市が有する多様な市民参加の実績を踏まえ、「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」の策定にあたって、住民基本台帳から無作為抽出した市民による市民討議会である「みたかまちづくりディスカッション」を含む多様な市民参加を実施して、幅広い市民の声を反映することにした。

「みたかまちづくりディスカッション」は、平成18年（2006年）に自治基本条例の「パートナーシップ協定」の規定に基づき、三鷹青年会議所と市が協定を締結して、行政が主催者となる形では全国で初めて行った手法で、今回で9回目の開催となる。これまで、基本計画の策定・改定や東京外かく環状道路関連の検討、防災をテーマにした検討など、さまざまな分野において幅広い市民の意見を聞く場として活用され、いずれの開催においても、参加市民の高い満足度が数値として示されている。そのため、「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた市民参加においても、「多元的・多層的」な手法の一つとして取り組むこととされた。

今回の「みたかまちづくりディスカッション」の運営については、中立な立場で、市民同士の議論を公平に進めていくため、実行委員会形式で実施した。また、サイレントマジョリティーと言われる少数意見に対しても幅広く耳を傾け、その声をできる限り基本構想に反映させることを目的とし、市民の視点に立った討議テーマ等を検討した。

II 位置付け

1 第4次三鷹市基本計画（第1次改定）

「第4次三鷹市基本計画（第1次改定）」は、平成27年度（2015年度）から平成34年度（2022年度）を計画期間とする三鷹市の基本計画である。

庁舎等の建替えについては、基本計画の第8部「ふれあいと協働で進める市民自治のまちをつくる」第2『21世紀型自治体』の実現と都市自治の確立』において、主要事

業として位置付け、「三鷹まちづくり総合研究所」で、市庁舎建替えに向けた検討手法等の研究を進めると記載されている。

2 庁舎等建替えに向けた基本的な枠組みに関する研究会（三鷹まちづくり総合研究所）

市では、市庁舎の建替えに向けた調査・研究を迅速かつ多角的に検討するため、NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構と共同で設置している「三鷹まちづくり総合研究所」において、平成28年（2016年）9月に「庁舎等建替えに向けた基本的な枠組みに関する研究会」を設置した。研究会では、学識経験者と市職員を研究員とし、様々な立場、視点から11回にわたり活発な議論を行い、平成29年（2017年）6月に調査・研究結果の報告書を取りまとめ、研究会から三鷹市へ提出された。

報告書では、将来の市民サービスのあり方や市民の暮らし方、働き方等を見据えながら、新庁舎等の建替えに向けた基本的な考え方や位置、規模などについての方向性を示している。

3 三鷹市庁舎等整備基本構想策定に向けた基本的な考え方

市では、市庁舎等の建替えを推進するために、「庁舎等建替えに向けた基本的な枠組みに関する研究会」の報告書を踏まえ、平成29年（2017年）8月に「三鷹市庁舎等整備基本構想策定に向けた基本的な考え方」を策定した。基本的な考え方では「新庁舎等整備に向けての課題整理」「新庁舎等の整備に向けた基本コンセプト」「基本構想策定スケジュールと手法」等について具体的に示しており、「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けて、「みたかまちづくりディスカッション」をはじめとする多様な市民参加、市議会との連携、学識経験者の参加、職員の参加等を図っていくこととしている。

4 「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた市民参加の取り組み

市では、基本構想の策定に向けて、「三鷹市庁舎等整備基本構想策定に向けた基本的な考え方」に基づき、平成29年度（2017年度）に「市民意向調査（アンケート）」及び「みたかまちづくりディスカッション」を実施した。平成30年度（2018年度）は、市民センター内での新庁舎等の配置計画について、建築資格等を有する市民や専門家等によるワークショップや、多様な市民参加を踏まえて策定する基本構想（素案）へのパブリックコメントを実施し、基本構想を策定する予定である。

5 「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定スケジュール

基本構想の策定にあたっては、平成29年度（2017年度）から取り組みを開始し、平成30年度（2018年度）に確定するまで、多様な市民参加の実施のほか、基本構想の策定を含む今後の取り組みに向けた基礎資料とするため、建替え用地として想定している市民センター敷地内の現況調査や、現庁舎等の市民、職員の利用状況等を把握する庁舎利用環境調査を実施するとしている。

次ページに、基本構想が確定するまでの流れを示す。

「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定スケジュール

	平成29年度(2017年度)									平成30年度(2018年度)								
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
基本構想		○ 基本的な考え方										○ 素案			○ 基本構想確定			
市民意向調査				←	アンケート実施	→	集計	分析	→									
市民参加							まちづくりディスカッション	○			ワークショップ	○	←	パブリックコメント	→			
現況調査					←	測量、地下埋設物調査	→											
庁舎利用 環境調査					←		課題抽出、文書量調査、職員ヒアリング	→										
学識・職員参加、 議会との連携	←																	

(出典：「三鷹市庁舎等整備基本構想策定に向けた基本的な考え方」)

III 実施概要

市民参加の経験が無い方でも参加しやすいように、テーマに沿った情報提供を行い、少人数のグループに分かれて話し合いを行う「無作為抽出による市民討議会」として、「みとかまちづくりディスカッション」を開催した。日常生活の中で市政に対して関心や意見を持ちながらも、市民参加の場に率先して出席する機会のなかったサイレントマジョリティーといわれる市民にも市政に接する有意義な機会となった。運営にあたっては、NPO法人みとか市民協働ネットワークとパートナーシップ協定を締結し、三鷹青年会議所、三鷹商工会青年部、JA東京むさし三鷹地区青壮年部、住民協議会、大学生（杏林大学、国際基督教大学、ルーテル学院大学）など市民29人による実行委員会を組織した。

住民基本台帳から無作為抽出した1,800人の市民に対して参加依頼を行ったところ、142人が参加を希望されたため、予定していた定員60人を80人に変更し、公開抽選を行った。当日は当選者80人のうち62人が参加し、2日間のプログラムに沿って話し合いを行った。

1 開催日時

平成30年2月11日（日・祝） 12:30～17:00
12日（月・休） 10:00～17:00

2 会場

三鷹市公会堂 さんさん館

3 参加者数

第1日目 62人 第2日目 62人

4 目的及びテーマ

(1) 目的

市庁舎・議場棟等建替え基本構想の策定に向けた市民意見の反映

(2) テーマ

みなさんが描く新庁舎等のイメージは？

IV 本番当日のスケジュール

1 スケジュール

【第1日目】 平成30年2月11日（日・祝） 12:30～17:00		
12:30～12:45	15分	主催者代表あいさつ（正満たつ子 市民協働ネットワーク代表理事） まちづくりディスカッションの概要説明など
12:45～13:15	30分	【情報提供①】
13:15～13:30	15分	【情報提供②】
13:30～14:00	30分	【情報提供③】
14:00～14:15	15分	各グループ（ABC）の会議室へ移動・休憩
14:15～15:00	45分	市庁舎見学
15:00～15:10	10分	休憩
15:10～15:30	20分	話し合いのためのガイダンス（各会議室にて）
15:30～16:30	60分	第1回 話し合い
16:30～17:00	30分	第1回 話し合いの発表と投票 2日目に向けての事務連絡
17:00～17:15	15分	休憩と移動
17:15～18:00	45分	懇親会（自由参加）

【第2日目】 平成30年2月12日（月・休） 10:00～17:00		
10:00～10:05	5分	前日の振り返り
10:05～10:20	15分	【情報提供④】
10:20～10:35	15分	【情報提供⑤】
10:35～10:50	15分	【情報提供⑥】
10:50～11:00	10分	各グループ（ABC）の会議室へ移動・休憩
11:00～12:00	60分	第2回 話し合い
12:00～12:30	30分	第2回 話し合いの発表・投票
12:30～13:15	45分	昼食
13:15～14:15	60分	第3回 話し合い
14:15～14:45	30分	第3回 話し合いの発表・投票
14:45～15:00	15分	休憩
15:00～16:00	60分	第4回 話し合い
16:00～16:30	30分	第4回 話し合いの発表・投票
16:30～16:40	10分	休憩と会場移動（全体会場へ）
16:40～16:50	10分	概括と今後の日程等について
16:50～17:00	10分	お礼のことば（清原慶子 三鷹市長）など

2 話し合いのテーマと情報提供の内容

(1) 話し合いのテーマ

第1日目	第1回	「市民にとっての市庁舎（市役所）とはどのようなものですか」
第2日目	第2回	《人間》「市庁舎は、乳幼児から高齢者まですべての市民が利用します。誰もが使いやすい市庁舎について、市民、議員、職員の視点から話し合ってください」
	第3回	《空間》「市民にとって望ましいと思う市庁舎を、建物、配置、景観などの視点から話し合ってください」
	第4回	《時間》「三鷹の歴史や文化を継承し、未来にひらかれた市庁舎など、過去・現在・未来の観点から話し合ってください」

(2) 情報提供の内容

第1日目	情報提供①	「庁舎等建替えに向けた基本的な考え方」について 清原慶子 三鷹市長
	情報提供②	「あらゆる災害・リスクに対応する市庁舎」 村上正浩 工学院大学建築学部教授
	情報提供③	「市庁舎建築とは何か ～人間・時間・空間の視点から庁舎事例紹介～」 松岡拓公雄 亜細亜大学都市創造学部教授
第2日目	情報提供④	「情報システムの視点から未来を見据えた市庁舎」 松本公秀 NTTネットワーク基盤技術研究所主席研究員
	情報提供⑤	「環境に配慮した市庁舎 ～脱炭素社会に向けて～」 村越千春 住環境計画研究所最高顧問研究員
	情報提供⑥	「景観に配慮した市庁舎」 齋藤啓子 武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授

第2章 まちづくりディスカッションの話し合いの結果

I 話し合いに向けて

「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」の話し合いのテーマ設定については、「三鷹市庁舎等整備基本構想策定に向けた基本的な考え方」の基本コンセプトで示された「人間」「時間」「空間」の視点から検討することとし、話し合いを行う順番も含め実行委員会において模擬ディスカッションを行うなど、時間をかけて丁寧に設定した。

話し合いに向けては、テーマに関する基本的な情報がない方でも話し合いに参加できるよう、当日の話し合いの前に情報提供を行うこととした。2日間に分けて行われた話し合いのうち、市庁舎全般をテーマに話し合う第1日目には、市庁舎建替えに向けた市の基本的な考え方、防災及び他自治体の庁舎の事例等総括的な情報提供を行い、情報提供後に市庁舎内見学を実施し、話し合いを行うこととした。市庁舎の在り方について話し合う第2日目には、市庁舎建替えについて、ICT、環境及び景観の視点から情報提供を行い、話し合いを行うこととした。

1 第1日目の話し合いのテーマと情報提供の概要

(1) 話し合いのテーマ

「市民にとっての市庁舎（市役所）とはどのようなものですか」

(2) 情報提供の概要

ア 「庁舎等建替えに向けた基本的な考え方」

現庁舎における具体的な課題と、それを踏まえ建替えに向けた三鷹市の基本的な考え方について

イ 「あらゆる災害・リスクに対応する市庁舎」

大規模災害時の業務継続の重要さと地震以外の災害によるリスクや、災害対策の先進事例について

ウ 「市庁舎建築とは何か ～人間・時間・空間の視点から庁舎事例紹介～」

市庁舎の先進事例の紹介とともに、市庁舎の在り方と議論する上で大切な視点について

2 第2日目の話し合いのテーマと情報提供の概要

(1) 話し合いのテーマ

ア 《人間》「市庁舎は、乳幼児から高齢者まですべての市民が利用します。誰もが使いやすい市庁舎について、市民、議員、職員の視点から話し合ってください」

イ 《空間》「市民にとって望ましいと思う市庁舎を、建物、配置、景観などの視点から話し合ってください」

ウ 《時間》「三鷹の歴史や文化を継承し、未来にひらかれた市庁舎など、過去・現在・未来の観点から話し合ってください」

(2) 情報提供の概要

ア 「情報システムの視点から未来を見据えた市庁舎」

実用化に至っていない技術を含む近未来の I C T による新庁舎の可能性や、I C T の使用目的について

イ 「環境に配慮した市庁舎 ～脱炭素社会に向けて～」

地球温暖化に対する世界規模の環境配慮の動向を受けて、新庁舎に求められる省エネへの取り組みの手法等について

ウ 「景観に配慮した市庁舎」

景観がもたらす効果と新庁舎のイメージづくりにおける論点について

II 話し合いの方法

話し合いの回数は、これまで開催したまちづくりディスカッションの検証の中で、高齢の参加者もいるため、全体で 1.5 日とすることが望ましいとの意見が多かったことから、全 4 回とした。また、話し合いは、各回 1 時間とし、参加者を 1 グループにつき原則 5 人で 3 つの会場に分けて、会場ごとに発表・投票を行うこととした。また、第 1 回から第 4 回の話し合いのたびにメンバーを入れ替えて行うこととし、投票に使用するシールの枚数は 1 人 6 枚とした。

III 話し合いの結果

各回の話し合いの結果は、テーマごとに各グループ 3 つ以内にまとめ、各会場でグループ別に発表を行ったのち、投票を行った。テーマ、会場別の話し合いの結果は、次ページ以降に、まとめたとおりである。以下、話し合いの結果の見方である。

<話し合いの結果の見方>

【第〇回話し合い】 〇会場					
各話し合いのテーマ名					
■	会場内で出た代表的な意見 ※代表的な意見は、会場ごとの「まとめの意見」について、実行委員会で意見の方向性が同じと思われるものをグループ分けし、得票数が多いグループから意見を抽出しているため、会場内での一番得票数が多い意見ではない場合がある。				
	投票結果の概要				
<table border="1"><thead><tr><th>まとめの意見</th><th>得票数</th></tr></thead><tbody><tr><td>まとめの意見 ※グループごとに作成した話し合いのシート（32～43 ページ参照）において、「まとめ（3 つ以内）」の欄に挙げられた意見であり、会場ごとの投票結果を得票順に一覧にしたもの</td><td></td></tr></tbody></table>		まとめの意見	得票数	まとめの意見 ※グループごとに作成した話し合いのシート（32～43 ページ参照）において、「まとめ（3 つ以内）」の欄に挙げられた意見であり、会場ごとの投票結果を得票順に一覧にしたもの	
まとめの意見	得票数				
まとめの意見 ※グループごとに作成した話し合いのシート（32～43 ページ参照）において、「まとめ（3 つ以内）」の欄に挙げられた意見であり、会場ごとの投票結果を得票順に一覧にしたもの					

【第1回話し合い】 A会場

市民にとっての市庁舎（市役所）とはどのようなものですか？（どうあったらいいですか？）

行政サービスを受けるだけでなく、市民がコミュニケーションをとり、かつ遊べる場
知りたい情報を迅速に、的確に提供する場所

A会場の第1回話し合いの投票の結果、市庁舎は行政的機能だけにとどまらず、多世代が交流し、さまざまな楽しみ方ができる市民に開かれた市庁舎であつたらいいとの意見が多かった。また、IT化への対応やバリアフリーなど、機能や設備面での意見も多く出た。

まとめの意見	得票数
防災に強い庁舎。ただし、コストパフォーマンス、人口減を考えたもの	15
市役所、防災公園までのアクセスを良くする。	14
市民及び職員が使いやすい所。特に子育て世代・障がい者・高齢者などにやさしい施設	12
行政サービスを受けるだけでなく、市民がコミュニケーションをとり、かつ遊べる場	12
来やすく、入りやすい市民に開かれた市役所（時代に合った企業とコラボ）	11
民間のノウハウを活用して、低価格なサービスを提供する。また、維持費の適正化による市民負担の軽減を図る。	11
来庁者にゆとりのあるスペースと複合施設（食堂、図書館等）の提供	10
知りたい情報を迅速に、かつ的確に提供する場所	10
用事がなくても行ってみたくなるレストラン、1つの目的だけでなく多様性のある場所（複合施設）、開かれた議会、緑が多い、多世代が交流出来る場所	9
IT化による事務の簡素化	8
避難場所に地下シェルターを検討するなど、耐震対策を十分にすること。 ※機能はもちろんオリジナルな建設 ※限度ある敷地に多機能設備を入れる。市民住宅を併設検討（デザインビルド方式よりは三鷹方式の創出）	7
ハード、ソフトの両面で機能継続が必要。無線、有線対策は必要。ITの進化に対応出来る柔軟な庁舎。BCDの考え方は当然	6

【第1回話し合い】 B会場

市民にとっての市庁舎（市役所）とはどのようなものですか？（どうあったらいいですか？）

市民の交流の場、情報交換の場、ボランティアの育つ環境

市民が手続き以外で用事がなくても行きたいと思う場になってほしい。

B会場の第1回話し合いの投票の結果、市庁舎は交流の場、意見交換の場など、手続き以外でも行きたくなるような敷居が低く気軽に集まれる場所であつたらいいとの意見が多かった。そのほかにも、保育所や駐車場、人にやさしいスペースなど、施設や設備に対する意見も多く出た。

まとめの意見	得票数
市庁舎の中に保育所がほしい。	13
内部業務（ネットワークシステム）、ホームページと建物内部の連携を明確にする。	13
市民の交流の場、情報交換の場、ボランティアの育つ環境。市民が手続き以外で用事がなくても行きたいと思う場になってほしい。	10
市民にとって敷居が低く、気楽に集まれる場所。三鷹らしさの特色を出せる場所でバス・ロータリー等も設置	9
三鷹市の文化や技術を活かしたオリジナリティーのある、市民が誇れる場所	9
効率的で維持費がかからず、環境面にも配慮した場所。また、職員にとってもITやAIを活用し、紙を廃して業務効率アップをめざす。	9
市民の利用目的に、適格かつスムーズに対応でき、また、高齢者、障がい者、外国人、職員にもやさしい場所	9
必要なサービスについて、様々な人が安心して相談できる場所。また、知りたい情報を得る事ができる場所	9
誰もがどこからでも簡単に来られ、皆が安心して集える場所	8
民間をとり入れた複合施設の充実	7
全てバリアフリーで災害に強い建物にしてほしい（建物をひとつにまとめて）。ストレッチャーが入るエレベーター、展望室、不用品交換の展示の場、広い駐車場がほしい。	7
高齢者や子連れや障がい者の方に優しいスペースと配置作り（車いすや待ち合室等）	7

【第1回話し合い】 C会場

市民にとっての市庁舎（市役所）とはどのようなものですか？（どうあったらいいですか？）

迅速かつ便利な窓口

わざわざ来たいと思える楽しさがあり、自慢ができる庁舎

C会場の第1回話し合いの投票の結果、市庁舎は交流の場、意見交換の場など、手続き以外でも行きたくなるような敷居が低く気軽に集まれる場所であつたらいいとの意見が多かった。そのほかにも、保育所や駐車場、人にやさしいスペースなど、施設や設備に対する意見も多く出た。

まとめの意見	得票数
わざわざ来たいと思える楽しさがある庁舎（食、情報交換、エンタメ、ショッピング観光、情報発信）	20
市民への防災施設の機能を有していること。	15
自慢ができる施設。市民、職員が楽しむために集まれるような施設、環境	13
市民に長く愛される施設耐用性	11
手続きの間ただ待っている事が多いので端末やメールで呼んでもらえる様なシステムやなおかつ魅力的な施設もあると楽しみながら待てる。	10
迅速かつ便利な行政窓口	9
市民サービスを市民の目線・要求に添って、スムーズに提供する場所であつてほしい。	9
公共サービスを入手・利用交換しやすい場所	7
幅広い世代にとって快適な環境	7
現在の市庁舎や中庭の雰囲気は暗く感じるので、子どもも怖がらないような明るい場所（お役所感のないお役所）	5
利用者にとって配慮された設備	5

【第2回話し合い】 A会場

《人間》 市庁舎は、乳幼児から高齢者まですべての市民が利用します。

誰もが使いやすい市庁舎について、市民、議員、職員の視点から話し合ってください。

将来の変化に対応している庁舎

プライバシーを確保し、安心して市職員に相談ができる場所

A会場の第2回話し合いの投票の結果、新しい庁舎は、将来の変化に対応でき、市民のいこいの場となるようなあり方やイメージについての意見が多く出された。また、子どもや高齢者・障がい者にも十分な配慮が必要であるとの意見も多く出た。

まとめの意見	得票数
将来の変化に対応している庁舎（他への転用可能な庁舎）（人口減、職員減、市町村合併、来庁必要性の減少など）	30
プライバシーを確保し、安心して市職員に相談ができる場所	21
行政サービスの窓口だけでなく、魅力がある複合的施設（武蔵野プレイスのイメージなど）	13
庁舎敷地内にバス停を。庁舎内に高齢者や低所得者の住宅を。保健センターに子どもの救急医療施設を	11
最上階にレストランを置き、メニューもレベルアップしてほしい。また、コンビニを置いてほしい。	11
乳幼児の来庁に配慮した空間作り。保育所の設置や窓口近くにキッズスペースを	8
広場に噴水と市民に親しみのあるモニメントを置く。駐車場は地下にして、地上はイベント開催できるスペース	7
いこいの場、くつろげる場を。ゆとりのある待ち合せスペースと、待ち時間を短縮する工夫を	6
サービス施設の集約とサービスのしやすさにより、必要なサービスを必要な人へ	5
高齢者に配慮したバリアフリーと職員の執務スペースの十分な確保	4
バリアフリー（廊下も含め両側に手すり、通過式エレベーターなど）	3
高齢者・障がい者などにやさしい庁舎（バリアフリーの充実）	2

【第2回話し合い】 B会場

《人間》 市庁舎は、乳幼児から高齢者まですべての市民が利用します。

誰もが使いやすい市庁舎について、市民、議員、職員の視点から話し合ってください。

視覚・聴覚障がい者、外国人にもわかりやすい案内受付とボランティアやシルバー人材の活用

コーヒーショップ、ギャラリー、スタジオなど、人がつどえる空間を

B会場の第2回話し合いの投票の結果、だれにとっても分かりやすい案内表示と動線を確認してほしいとの意見が多かった。また、コーヒーショップなど人がつどえる空間や保育所、駐車・駐輪スペースなど施設・設備面での意見も多く出た。

まとめの意見	得票数
業務、議場、市長室の見える化	15
コーヒーショップ、ギャラリー、スタジオなど、人がつどえる空間を（民間や障がい者施設の活用）	13
視覚・聴覚障がい者、外国人にもわかりやすい案内受付（AR、AIロボットの活用）と、ボランティアやシルバー人材での活用	11
高齢者、障がい者、子ども連れの人達が動きやすい通路スペース。パーキングから市庁舎までの入りやすい順路	10
イベントの企画（例：映画の上映など）、三鷹の特産物を使ったレストラン（食堂）・カフェ、図書館、コンビニ等楽しめる環境	9
市民・議員・職員がすぐに入所できる保育園を市庁舎に。駐車スペース、自転車置場の確保。高齢者の楽しめるスペースの確保（碁、将棋など）。バリアフリー化の確保	9
市民、職員、議員、外国の方など、誰にとってもわかりやすい案内と標示、動線があること。	7
バリアフリーを充実させ、同時に来庁しなくてもサービスを受けられるサポート体制の整備	7
人の働き方、設備、スペースの汎用化など柔軟性がある。	7
市民の声と市政をつなぐしくみ（議員との接点の容易化）	7
緊急時にも平常時にも、的確に行動できる仕組みがあること。	6

【第2回話し合い】 C会場

《人間》 市庁舎は、乳幼児から高齢者まですべての市民が利用します。

誰もが使いやすい市庁舎について、市民、議員、職員の視点から話し合ってください。

スペースをオープンにし明るい雰囲気のある庁舎。また職員、市民、議員のモチベーションが上がる施設

市民（職員、議員も）交流できるスペース

C会場の第2回話し合いの投票の結果、「明るい雰囲気」「交流できる」「愛着がもてる」など、庁舎の雰囲気やイメージに対する意見が多く出された。また、バリアフリー化に対する意見も多く出た。

まとめの意見	得票数
スペースをオープンにし明るい雰囲気のある庁舎(色分けするなど感覚で動ける)。また、職員、市民、議員のモチベーションが上がる施設	17
市民（職員、議員も）交流できるスペース	12
三鷹を良く知るための施設を充実させることによる、三鷹のシンボリックデザイン	12
入口から窓口までのスムーズなアクセシビリティ	12
IT化に伴うユーザー環境の整備。ITに溶け込めない方への配慮も	11
基本的なバリアフリーは必須。施設内だけでなく、来庁しやすいように周辺道路や信号も含めたバリアフリー化	9
働く人にとっても愛着のもてる庁舎で市民と職員との良い距離感がもてるような所	8
来庁者にとって解放感があり、誰にとっても伝わりやすく、情報が得られる（コンシェルジュ・受付対応等）。	8
業者などと連携して、カフェやレストラン、複合施設など、行きやすく、働きやすい場所	7
手続以外の時間の有効活用	5
安心、安全でバリアフリーに配慮した庁舎	5
業務の効率化により職員のモチベーションを高め、市民にやさしくなる。	4

【第3回話し合い】 A会場

《空間》 市民にとって望ましいと思う市庁舎を、建物、配置、空間などの視点から話し合ってください。

将来を見据え、規模の適正化を考慮した建物の大きさ
防災公園と遊歩道（プロムナード）でつなげる。また、郵便局、公会堂と一体化する。

A会場の第3回話し合いの投票の結果、将来のさまざまな変化に対応できる機能性と緑豊かな景観を望む意見が多く出た。その他、近隣施設との関係やコストに対する意見が出た。

まとめの意見	得票数
防災公園と遊歩道（プロムナード）でつなげる。また、郵便局、公会堂と一体化する。	18
将来を見据え、規模の適正化を考慮した建物の大きさ	15
低層で入口を複数作る。エレベーターを透明にする。間取りを変更出来るようにする。	14
変化に対応できる。「Simple is Best」な建物。高齢者や子どもに十分配慮したものとする。	12
箱物でないオリジナリティのある景観。子どもに親しみのある外観	11
水、緑、光（日当り）、風、空気を十分考慮する（北側も検討）。	10
防災対策、セキュリティ対策（災害用備蓄、ヘリポートの設置等）	8
建物は機能重視（景観は魅力ある建物（緑を考慮））	8
郵便局も含めた一体開発と、民間企業（コンビニやレストランなど）とのタイアップによる建築コストの抑制	8
市役所の低コストにし、なおかつ機能重視する。	4
アクセスの向上のためにバス停や庁舎へのアプローチの抜本的見直し（人見街道北側からの安全なアクセスと交通渋滞の解消）	3

【第3回話し合い】 B会場

《空間》 市民にとって望ましいと思う市庁舎を、建物、配置、空間などの視点から話し合ってください。

三鷹らしさを表現した建物（自然、文学）

市庁舎のエネルギーの自給自足

B会場の第3回話し合いの投票の結果、「三鷹らしさ」「緑と水」「広場」など市庁舎のイメージに対する多くのキーワードが出された。また、デザインや機能に対する意見も多く出た。

まとめの意見	得票数
市庁舎のエネルギーの自給自足	13
バスターミナルの設置、人見街道の拡幅、自転車のシェアリング（駅と市庁舎間）など、アクセスの充実化	12
三鷹らしさを表現した建物（自然、文学）	11
三鷹市のイメージである緑と水を取り入れたあたたかみのある建物（一部木造も取り入れる。）	10
景観（建物）は三鷹のシンボルとなるように。市民センターのシンボルとなるモニュメントを	10
ジブリ風の建物をイメージし、図書館等を組みこむソーラーパネルを多用する。	10
エリアで色分けし、自然な木、植物でいやされる空間。ギャラリー、防音空間を作ってほしい。	10
天井が高く、柱のない1フロア。建物の高さ制限（25m）の廃止。屋上の有効利用、地下の有効利用といった建物空間の有効活用	10
緑と広場の中にベンチをたくさん作って市民が集える犬と遊べるような広場にしてほしい。	9
市民活動のためのスペースがある。	9
子ども連れが安心して利用できる広場を中心とした配置	8
市民を受け入れる雰囲気溢れた建物	7

【第3回話し合い】 C会場

《空間》 市民にとって望ましいと思う市庁舎を、建物、配置、空間などの視点から話し合ってください。

光・木・水を活かした建物、景観づくりで三鷹市らしい四季を表現
施設の一体化による動線、安全性の向上と利便性UP

C会場の第3回話し合いの投票の結果、「光・木・水」「三鷹らしさ」など市庁舎のイメージに対する多くのキーワードが出された。また、配置や導線の確保に対する意見も出された。

まとめの意見	得票数
光・木・水を活かした建物、景観づくりで三鷹市らしい四季を表現	17
天災・人災・病災等、ライフラインのサポートができる施設	14
業者ではなく、三鷹に合った、改修しやすく、将来対応、後々残れる建物	13
施設の一体化による動線・安全性の向上と利便性の向上	12
外付けのエレベーターを設置する（車いす・ベビーカー用）。	12
メンテナンス・安全に配慮した工法による市民が安心できる景観づくり	11
車（タクシー、自家用）、バス用のロータリーの設置。車、バイク、自転車、徒歩利用、誰にとってもアプローチしやすい建物への動線の確保	11
IT化（ペッパーやアイボなど）	7
利用者（市民、議員、職員）に配慮し、光を取り入れたストレスフリーな空間	6
誰にでもわかりやすいシンボル。自然を活用した、心、体が休まる憩いの広場等	5
憩いの場（交流、ゆとり、イベントルーム）	4
三鷹らしい自然（緑や川）をイメージできるような景観	1

【第４回話し合い】 A会場

《時間》 三鷹の歴史や文化を継承し、未来にひらかれた市庁舎など、
過去・現在・未来の観点から話し合ってください。

三鷹歴史・文化の展示コーナーを作る。

三鷹固有の自然（ビオトープ、親水公園、体験できる施設など）もあり、
それを体験できる施設

A会場の第４回話し合いの投票の結果、三鷹の歴史や文化、自然を表す施設・設備としての展示コーナーや自然を体験できる施設などのアイデアが出た。その他、広場機能や行政機能の強化に対する意見も出た。

まとめの意見	得票数
三鷹の歴史・文化の展示コーナーを作る（野菜のバザールを開く）。	17
三鷹固有の自然（ビオトープ、親水公園、湧き水、ホタル、水辺）もあり、それを体験できる施設	15
公会堂を芝居・演劇に対応した 300 席程度の規模に建替える。市民（子どもを含む）に使いやすくする。	14
三鷹独自の文化を活かせる庁舎。空の広さを（低層庁舎）	13
市内の既存施設の紹介を。歴史情報発信（近藤勇、天文台、鷹狩り、井の頭弁天）	12
過去と現在にとらわれることなく、未来の変化に対応可能な庁舎	11
若者へのPRをするために、インスタ映えする建物を。子ども達による企画が出来る部屋	9
三鷹の特産物を扱うスペース（マルシェ等）	9
今より魅力的で使いやすい広場にする（人見街道から見やすい等）。	7
雑木林をイメージさせる市役所。落ち葉で焚き火やイベントを開催	6
未来に向け、子育て支援等の更なる強化を（子どもを産みやすくする助成金の更なる充実を図る。高齢者が直ぐに行ける近くの診養所を設ける。）	5
市役所の建替えに応じて、各課の実務機能の充実化を図る。	4

【第4回話し合い】 B会場

《時間》 三鷹の歴史や文化を継承し、未来にひらかれた市庁舎など、
過去・現在・未来の観点から話し合ってください。

高齢者を支援できる体制の市庁舎。郵便局と一体となった宅配BOXの設置。
子どもが参加・体験できるエリアの創設
業務の効率化を図り、人財を有効活用する。

B会場の第4回話し合いの投票の結果、「三鷹の記憶・歴史のデータベース化」「身元・安全確認のシステム化」「文化を伝承する検索ツール」等々、ソフト事業に関するアイデアがたくさん出された。

まとめの意見	得票数
高齢者を支援できる体制の市庁舎（シルバーパスの発行等）。郵便局と一体となった宅配BOXの設置。子どもが参加・体験できるエリアの創設	15
未来の市庁舎は、文化的に洗練された市庁舎とし、人にしかできない業務に専念する。	14
業務の効率化を図り、人財を有効活用する。	12
ITの活用と高齢者の記憶により、三鷹の記憶・歴史をデータベース化する。	11
将来的に、東八道路側に玄関を。市庁舎のコンソール化。ICチップなどによるライフケア、身元・安全確認をシステム化する。	11
過去を知り文化を伝承する（ふるさと館（歴史館）や歴史を調べる検索ツールなど）。	10
市民参加の場を増やし、郷土愛を育む。	9
ガラス化で市政を見やすくする。また、市政見学ツアーを実施する。市民からの情報で三鷹の最新情報、おすすめなどが分かるようにする。	9
歴史を認識するため、デジタルアーカイブの活用を。三鷹の文化人を巡ることができる一画を設置する。	9
自動運転バスなど、先端技術を積極的に取り入れ未来をいち早く体験できる場所にする。	8
現在進行中のプロジェクトをアピールする。	4

【第4回話し合い】 C会場

《時間》 三鷹の歴史や文化を継承し、未来にひらかれた市庁舎など、
過去・現在・未来の観点から話し合ってください。

これから起きる課題にフレキシブルに対応できる建物。環境の変化、経済的負担を子どもにかけない市庁舎
昔のように緑が感じられる市庁舎

C会場の第4回話し合いの投票の結果、「未来の課題に対してフレキシブルに対応できる」「自然が感じられる」といった市庁舎のあり方に関する意見が多く出された。また、歴史や文化を体験できるような機能を求める意見も出された。

まとめの意見	得票数
これから起きる課題（人口の増減、建物の使用法など）にフレキシブルに対応できる建物。環境の変化、経済的負担を子どもにかけない市庁舎	18
過去にあった他の地域との交流を	15
昔のように緑が感じられる市庁舎	13
過去にあった歴史や文化を体験できる庁舎（VR・フリーペーパー・映画館）	12
きれいな水を生かして自然のある市庁舎を	11
歴史文化がわかる庁舎があるとよい。三鷹という歴史を知るきっかけを作る。	10
三鷹の強みである自然が多くたくさん残る地区を守る環境づくり。	9
歴史や文化をデジタルで残し、発信することで三鷹の良さを伝えられる市庁舎	8
三鷹市のイベント（お祭り、展示スペース等）を市役所内で。市役所までの道も魅力的に	7
ソフト、ハード面で常に新しい物を取り入れられる庁舎（家族でも楽しめる、親しめる、愛される。）	5
現在の人口分布や窓口サービス時間の分析を行い、今後の多様化（人、建物）に柔軟に対応できる。	4
あえて庁舎にむだなスペースを	2

第3章 まちづくりディスカッションの評価・検証

「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」は、三鷹市とNPO 法人みたか市民協働ネットワークがパートナーシップ協定を締結し、協働で推進した取り組みである。三鷹市で9回目の開催となる今回のまちづくりディスカッションの主な特徴は、以下のとおりである。

- (1) NPO 法人みたか市民協働ネットワークが、平成 22 年度（2010 年度）に実施した「コーディネーター養成講座」の受講者に加え、同法人が平成 29 年度（2017 年度）にNPO 法人三鷹ネットワーク大学と協働で行った「三鷹『まち活』塾」の修了生や市内3つの大学に呼びかけて、これまで以上に幅広い個人・団体で実行委員会を設置し企画・運営を行った点
- (2) 全体スケジュールを1.5日とした点

以上の2点をふまえ、実行委員会で評価と検証を行った。

I 評価・検証（プログラム編）

1 プログラム設計

- ・「間」のコンセプトを軸にしたテーマは明快で良かった。1回目の抽象的な質問に戸惑いも見受けられたが、導入と考えれば自由な発言も期待できるため、全体を通して考えれば適切だったと感じる。
- ・前提として「庁舎等建替えに向けた基本的な考え方」があったので、決めやすかったのではないかなと思う。実行委員会の中で模擬ディスカッションをしたことで、設問の改善点や言い回しについて考えることができてよかった。
- ・設問・テーマ設定など適切であった。話が出やすい設問・そうでない設問はあったが、話が出にくい設問・側面であっても、きちんと時間を設けることの意味を感じた。
- ・市庁舎の建て替えというメインテーマだったが、建物(箱)という観点からのみでなく、人・時間・空間というサブテーマで話し合えたのが良かったと思う。
- ・人間・空間・時間をテーマにした設問だが、テーマに絞った議論は難しそうだった。話し合いの内容が重複したり、似通ったものになっているものがあった。
- ・テーマが抽象的だったので、もう少し具体的にイメージしやすい設問でもよかったのではないかと感じた。
- ・徐々に深堀していくという点においてよかったと思う。しかし初日の時点で参加者がその意図を100パーセント理解していたという状況が出来ておらず、初日のディスカッションで様々な意見が出てしまい、結果、二日目のディスカッションで重複するように感じた参加者がいた。また、ディスカッション②の設

問の『市民・市議会議員・職員の目線から…』という文言が一部の参加者に分かりにくかったようで、ディスカッション開始時に少し混乱をしたテーブルがあった。

- ・概ね適切だが、いずれも似たような総花的な結論になってしまいがち。4回の話し合いのうち1回は、チームごとに設定したテーマを深掘りするような場としても良かったと思う。
- ・手上げアンケートは、導入と最後に組まれたが、参加者の状況や意識を知る上で、大変良かったと思う。
- ・当初は2日間、長丁場であったので高齢者等の参加者の体力面が心配されたが市民の方の積極的な参加が見られたので特に問題はないと思われた。

2 情報提供

- ・講師の先生の情報提供が参加者に対する誘導にならず良かった。参加者の方が適度に参考にしていたのもよかった。
- ・テーマに沿った内容の情報提供はどれも興味深かった。専門用語が多く、難解な内容もあったが、参加者が議論を深めるための情報としてはどれも適切だったと思う。
- ・とてもわかりやすい説明だったが、理解するには内容が高度なものもあった。また、時間もタイトに感じた。
- ・興味深く聞くことは出来たが、一部に説明的過ぎる部分があり、講義を受けているようであまり理解できていない参加者もいたのではないかな。
- ・紙ベースでは関心ある方向けに詳細に解説し、スクリーン上では焦点を絞って様々な方々に広く伝わる方が良いのではないかな。
- ・テーマとのバランスについておおむね良かったと思うが、さらにバランスを考えることができたかもしれない。
- ・様々な角度からの情報提供で、他の市庁舎の画像など想像できるものがあり、とても分かりやすかった。
- ・市庁舎見学が情報提供の理解を助けるきっかけになりよかった。

3 時間配分

- ・情報提供については、情報量によって時間を決めた方がよい。
- ・1回の話し合いの時間は60分というのは適切だと感じる。これ以上短いと話がまとまらないし、長いと集中力がもたないと思う。
- ・2日目に日程が詰まりすぎていると思う。2日目の3本目は、疲れている参加者もいた。初日に2本のディスカッションを行えると2日目の3本目はより密なディスカッションになっていたと思う。
- ・全体的に余裕があるのはよかったが、発表時間にもう少し時間を取ってもよいのではないかな。

- ・テーマについて話し合う時間からまとめ終わるまでの時間をひとくくりにして「話し合う」「付箋に書く」「まとめる」という項目を作りその班ごとに時間配分を決めてもいいのではないかな。

4 話し合いのやり方

- ・事前の実行委員会での話し合いでは、テーマ設定に苦労したが、具体的なテーマ設定ができていたのと、情報提供の内容がテーマに沿った適切な内容だったので、テーマの理解に時間がかかったりすることなく、スムーズに話し合いができていたと思う。
- ・多くの方が作業を分担できたのは良かったと思う。
- ・毎回メンバーを変えることはよかった。
- ・回数を重ねる毎に話し合いがスムーズになっていきよかった。発表係は同じ方がやるが多かったようなので、順番に参加者全員がバランスよくやるようにした方がいいと思う。
- ・事前注意にもあったが、発言力が強い人に引っ張られる傾向を実感した。対立・否定しない形でのリード・介入が状況に応じて必要だと思う。
- ・「まとめ」が付箋に掛かれた各意見をつなぎ合わせただけになってしまったものもあり、「まとめ」方について簡単に説明してもよかったかもしれない。
- ・発表者が、自薦もあり後半は特定の人に集中する傾向があった。
- ・市民の方にとって最初はコーディネーターの役割が理解しにくかったのかまとめ役の人との役割に混乱していたように感じた。
- ・コーディネーターがグループにどこまで干渉してよいのか、グループ内のまとめ役の人との役割が曖昧であった気がする。
- ・グループ内の年代・性別に、もう少しばらつきがあった方が良かった。
- ・最初に決定する役割分担で「進行係」や「まとめ係」になった方は、話し合い中も終始緊張されていた。逆に役割がない方は安心しきっている様子だったため、全員に役割がある方が良いと思う。
- ・グループ替えをすることによって、従前のグループで話をしなかった人が話をするようになったり、話し過ぎな人が協調性を持つようになりよかった。
- ・まちデイスの良い意味での特徴が機能したと思う。
- ・試行錯誤を積み重ねた良く練られた仕組みだと思う反面、良くも悪くも既視感のある安定した内容だった。運営経験に則った上で、遊び心のある試みをチャレンジしてもよいのではないかな。
- ・耳の遠い人がいたグループでは、その人に対角に座る人の声や、声の小さい人の声はほとんど届いていなかった。隣のグループとの距離を空けるなどして対応する必要がある。
- ・高齢の参加者も多く、高齢化社会に向けて多様な方の参加を想定するやり方の検討が必要かもしれない。

5 話し合いの内容と投票

- ・話し合いの内容はどのテーブルも非常に闊達な議論がされ、建設的な意見が多かったため、よかった。
- ・話し合いは、一つの流れに偏ることなく、誰か一つの意見に対して、いろいろな考えを話し合っていたのがよかった。
- ・まとめ係と発表係は、問題なかったと思うが、進行係を参加者が担当するのは、人によって出来る出来ないがあると思う。
- ・言い回しは違っても、まとめの内容は似ているグループが多く、より意見を集約させやすいかと思う。
- ・出てきた意見をまとめる段階で表現が変わってしまう部分も多く、キーワードなども残せると簡単に、より表現が伝わりやすいのではないかな。
- ・話し合いの段階では多様な意見が出ているのに、まとめの段階で、当たり障りのない、きれいな言葉に置き換えてしまい（たとえばコミュニティ、バリアフリー、メンテナンス等）、内容がぼやけてしまうのみならず、主旨そのものが変わってしまっている場面が何度かあった。
- ・文章としてのまとめ方や発表者の発表の仕方次第で、そのグループの話し合いの印象が大きく左右されてしまい、投票結果にも反映されてしまいがち。
- ・多くの方々が主体的に話をされていたので、市民の意識の高さを感じた。内容や議論の深さについてはメンバー構成次第ではあったが、それも全体の声を聴くという意味では良かったと思う。
- ・投票を行うことで、参加者の意識の傾向がわかり、また、投票でワークショップを盛り上げるという効果もあり、大変良かった。
- ・投票があることにより、他の人の意見を聞くモチベーションが上がったようだ。
- ・短時間の発表と投票、限られた文面では意図が伝わり切れず、何となくという側面があると思うので、得票数が持つ意味を重要視し過ぎない方がよいのではないかな。
- ・投票についてグループによって進行方法が違ったりしたので統一したほうがいい。投票してそのまま休憩に入る方法だと誰がどこに投票したか分かりづらく、その面ではいいかもしれない。

II 評価・検証（運営編）

1 実行委員会

- ・若いメンバーが活躍できる実行委員の構成はよかった。学生のみなさんもまじめに、頑張ってくれた。
- ・幅の広い年齢層のメンバーが居たので、もう少し若いメンバーから意見をもらっても良かったと思う。
- ・本番を想定した模擬ディスカッションをしていたので、当日のシミュレーションが参加者の立場からも体験出来て良かった。

- ・はじめて参加した人にとっては、過去のまちづくりディスカッションのビデオ等を見せてもらえば、もう少しイメージがわかりやすかったかもしれない。
- ・委員同士が交流する時間が有っても良かったと思う。

2 全体スケジュール

- ・全体のスケジュールがかなりタイトで、時間的に厳しかったと思う。長めに期間を取って、月に1、2回程度話し合って、少しずつ内容を決めていく方法が良いと思った。
- ・準備期間はもう少し長いか、事業直前には2週間に一度以上の頻度にするなどして、設営側の精度を上げる必要を感じた。
- ・もう少し委員にも情報提供と考える時間があるとよかった。

3 人員配置・役割分担

- ・役割分担がもう少し早く決まっていると準備等をしやすいと感じた。
- ・コーディネーターの学生の方たちをはじめ、人員配置・役割分担は適材適所で良かったと思う。
- ・「ちょっと来てカード」で質問の際、どの方に繋げれば良いか分からず戸惑う事があったので、出来れば3会場に一人ずつスタンバイしていて欲しい。
- ・リーダー、サブリーダーがまちづくりディスカッション経験者でスムーズに対応できたのがよかった。
- ・市やNPO職員など、これまでに参加されたことのある経験者と初めての者として、それぞれ役割がきちんと分担されていたと思う。
- ・大学生のコーディネーターの柔らかかで誠実な対応が素晴らしかった。

4 会場設営

- ・運営が全体を把握しやすいので、できるだけ同じ階での開催であるといい。
- ・話し合いのシートをすべて貼り出せると良かった。
- ・模造紙を貼る場所が広くとれる会場だと見やすかったと思う。投票時に混み合っていた。
- ・1つの建物内の2つのフロアですべてを行うことができたので良かったと思う。
A グループは個別の部屋を使用していなかったのが分らないが、他の2グループはそれぞれ個別の部屋で行うことができたので、全体の集まりとメリハリがついて良かったと思う。
- ・広さや空調の温度調整等が充分でない会場があった。
- ・実行委員からも希望者を募り協力してもらえば、連帯感を高めたり、場の雰囲気をつくる等に良い影響があると思う。

5 参加人数・グループの人数

- ・当日の参加者を 60 人として 1,800 通の参加依頼書を発送した。参加承諾者は 142 人となったため、定員を 80 人に変更し抽選で 80 人を選んだ。結果として、当日の参加者は 62 人となったが、適切な人数と感じた。
- ・1 グループ 5 人というのは、発言機会・一呼吸できる時間・緊張感が適度になるグループの参加人数だった。
- ・二日目、早退された方もあり、4 人や 6 人グループとなったところがあったため、調整できるとよかった。
- ・部屋やグループによって、年齢や性別が偏ることがあったので、バランスよい調整ができるといい。



みたかまちづくりディスカッションを終えて

〈三鷹市長からの「お礼のことば」を掲載〉

皆様、大変お世話になりました。どうもありがとうございます。

「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」の策定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」の終わりに当たり、私から3つの点についてお話させていただきます。

1点目は、ご参加いただいたすべての皆様への感謝です。

1日半、ほぼ2日間にわたり、初めてのディスカッションにもかかわらず、熱心にご参加いただきました。昨年の10月に18歳になったばかりの高校3年生から、昨年の12月に82歳を迎えられた方まで、多世代、多職種の男性・女性の皆様が一堂に会し、初対面にもかかわらず熱心に語ってくださいました。

三鷹市では、「参加と協働のまちづくり」を市政の理念として明示した「三鷹市自治基本条例」を施行する前の1970年代から、市民の皆様の声をお聞きするため、様々な仕組みを作ってきました。重要な計画や条例についてパブリックコメントをさせていただくのみならず、市民会議や審議会でも皆様のお声が届く仕組みになっています。また、市民代表である市議会議員の皆様 一定数28名、現員数27名一 が、熱心に皆様のお声を届けてくださっています。

けれども私は、それだけではまだまだ幅広い市民の皆様のお声を聞くには十分ではないと考え、市長になって間もなくから、無作為に皆様を選ばせていただいて、このような語り合いの時をお願いしてきました。突然のご依頼にびっくりされたことと思いますが、貴重な時間を割いていただき熱心にそれぞれのご意見を言っていただきました。

三人寄れば文殊の知恵と申します。また、人は問われて初めて自分の考えがまとまるとも言われています。三鷹市にお住まいになっているという共通点で皆様が結ばれ、心を許して語り合っていただきましたこと、感謝の一言でございます。

加えて、松岡先生、齋藤先生、村越先生、村上先生、松本先生には、お忙しい中、貴重な情報提供をいただきました。それが皆様の語り合いの基礎的な情報になったことは確かだと思います。ご協力に感謝申し上げます。

三鷹市としても、私はもちろんですが、津端副市長、内田副市長、そして企画部、総務部、都市整備部の部課長をはじめ、とりわけこれからを担う若手の職員がご一緒に参加させていただきました。不十分だったとは思いますが、皆様の話し合いの条件整備ができていたならば幸いです。

2点目に、私たちは「間」ということの重要性を改めて感じました。

人と人との「間」に人間という言葉ができたとき、孤独ではなくなります。皆様からは、妊婦の方、ご長寿の方、障がいのある方、外国籍の方も含め、人間を多様にとらえたご提言をいただきました。

空は素晴らしいものです。そこに「間」が入ると、私たちにゆとりをもたらしてくれます。皆様には空間としての市庁舎等のあり方について、本当に縦横無尽に豊かな発想を提案していただきました。

時に「間」が入ると、時間軸が生まれます。私たちは過去を尊び、今を生きる喜び、苦しみ、悩みを分かち合い、未来に向けて責任を持っていかなければならないということを、皆様の話し合いの中で再確認させていただきました。

「間」という文字の持つ意味が、人間・空間・時間となり、市庁舎・議場棟等の役割が確認できたのは、皆様の語り合いが、まさに人と人との「間」に成り立ったからにほかなりません。

3点目は、これからへのお願いです。

三鷹市ではこの「まちづくりディスカッション」だけではなく、市民会議や審議会でも無作為抽出で皆様に時間が許せば委員になってくださいというお願いを、ほぼ2年に1度しております。皆様強運な方ですので、また市長からのお願いが届くかもしれません。その時にはぜひお引き受けいただければと思います。

そして、キックオフをした「三鷹市庁舎・議場棟等建替え基本構想」策定の取り組みについては、皆様の2日間の話し合いが確かに反映されているかどうかを確認し続けてください。

結びにあたりまして、皆様から頂いたご意見・ご提案につきましては、吉田実行委員長を中心に星野副実行委員長、根岸副実行委員長、清水副実行委員長をはじめ、実行委員の皆様が丁寧にまとめ、市長に提出してまいります。どうぞ皆様、このことにもご注目いただけたらと思います。そのお役を引き受けてくださいました特定非営利活動法人みとか市民協働ネットワークの正満たつる子代表理事をはじめ、理事の皆様、そして実行委員会の皆様のボランティア精神に心から感謝を申し上げます。

それでは、皆様から貴重なお時間をいただきましたことを無駄にはしてなりません。私たちはこれからも皆様とご一緒に、できることは庁舎ができる前に実行する、それが皆様にとって役立つことだと信じています。これからもお気づきの点がありましたらお気軽にお声を出していただけたらと思います。

このことをお願いし、2日間のお疲れが出ませんように心から願いまして、感謝のごあいさついたします。

皆様、大変お世話になりました。どうもありがとうございます。

三鷹市長 清原 慶子